

企画展「岡山市立図書館と戦国大名宇喜多氏」 を開催します

戦国大名、宇喜多氏に関する岡山市立図書館の所蔵資料(約30点)を展示します。展示品には戦国期の資料こそありませんが、江戸時代に執筆された史書やその他の記録・著作などから、後世の人々が岡山の戦国時代をどのように捉えて関心をもってきたかを知ることができます。

1 日時

令和8年4月1日(水)～5月17日(日) 開館時間 10時～18時(木曜日は11時～19時)
休館日 平日の月曜日(「みどりの日」の5月4日は月曜日ですが開館します)

2 場所

岡山市立中央図書館 2階 視聴覚ホール前の展示コーナー(北区二日市町)

3 内容

岡山市立図書館は、戦国期の武将について直接の資料こそ所蔵していませんが、江戸時代以降の人々が記録や伝承を集めて考証し、執筆した戦国期の岡山に関する史書など、関連する文献の写本を所蔵しています。また、当館に資料がある江戸時代後期に岡山城下で栄えた豪商には、祖先が宇喜多氏と関わりをもつことを誇ってきた家があります。

そこで後世の人々が宇喜多氏の時代をどのように考えてきたかを知るため、所蔵資料の中から宇喜多氏と戦国期の岡山を叙述した史書の写本を紹介するとともに、それらが近代に活字になり出版されて読書界へ広まるまでをたどります。また、当館が数多くの資料を所蔵する河本家は、江戸時代後期に岡山の文化に多大の貢献をした商家ですが、祖先が宇喜多氏とゆかりを持つことを誇りにしていました。

4 関連する歴史講座

「近世～近代の岡山の歴史家と宇喜多氏」 令和8年4月18日(土曜日) 14時～16時

「岡山城下の豪商、河本家と宇喜多氏」 令和8年5月16日(土曜日) 14時～16時

※いずれも 会場 当館2階 視聴覚ホール 定員60人(事前の申込受付なし、当日先着順)

講師 飯島章仁(当館主査学芸員)

【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 飯島・杉野

直通086-223-3373

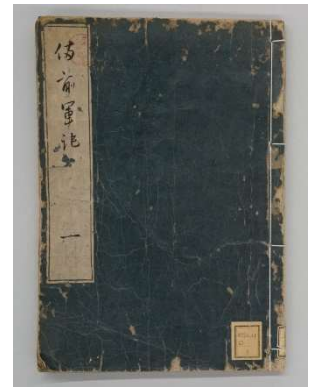
展示の内容と、おもな展示品

(1) 近世・近代における宇喜多氏への関心の歴史

写本で伝わった江戸時代の記録や史書と、近代の刊本で、宇喜多氏への関心をたどります。

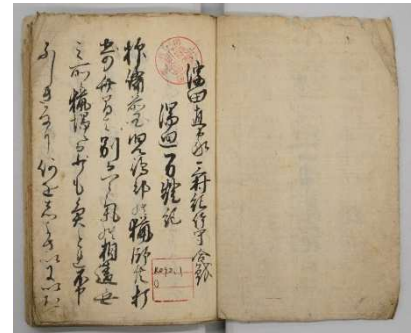
○『浮田秀家分限帳』江戸時代の写本

宇喜多秀家の家臣団の構成を記した書物で、江戸時代に書写された写本を1冊、当館も所蔵してます。



○土肥経平(著)『備前軍記』安永3年(1774)成立

岡山藩の重臣で学識の深かった土肥経平の著書です。備前国の戦国武将の興亡をたどり、宇喜多氏の覇権と没落を描いています。この書物で戦国期の備前の歴史の全体像がまとめられ、写本が書写されて読み継がれました。当館所蔵の諸本から江戸時代の写本(右図)と近代の刊本を紹介します。



○『湯廻万燈記』江戸時代の写本

備前国へ攻め入った三村氏を宇喜多直家が撃破した明禅寺合戦において、戦没者を弔うために始まったとされる湯迫村の万燈会について、その由来を書き記した書物の写本です(右図)。

(2) 岡山城下の豪商、河本家と宇喜多氏

江戸時代に貴重書の収集で文化に寄与した豪商、河本家の人々は、祖先が宇喜多氏に仕えるその一族であったと称していました。このことが示すように、宇喜多氏は関ヶ原合戦で敗れて流罪になったものの、池田氏以前の備前国の国主として、江戸時代にもふさわしい敬意が払われていました。

○『戸川全備録』(河本家旧蔵品)

宇喜多氏の重臣であった戸川氏が残した記録「戸川家譜」の写本です。土肥経平の『備前軍記』より成立時期が早く、古い情報が多いといわれています。



○河本一居肖像画(河本家旧蔵品) 寛政2年(1790)

河本家が岡山城下で有数の豪商に発展する基礎を築いた当主の肖像画です。上の方に書かれている文章の中に、河本家の祖先と宇喜多氏とのゆかりを記した箇所があります(右図)。

